



76
4906
5

彩所

加賀公使館邊心

浦里



生命 稲紐 愛敬 酒身 金財 衣裳 筆視 官帶 蠶養 印鈴 計林 牛馬 般車

命也為月 稲紐為月 愛敬為月 酒身為月 金財為月 衣裳為月 筆視為月 官帶為月 蠶養為月 印鈴為月 計林為月 牛馬為月 般車為月

命也為月 稲紐為月 愛敬為月 酒身為月 金財為月 衣裳為月 筆視為月 官帶為月 蠶養為月 印鈴為月 計林為月 牛馬為月 般車為月

銀 金

銀 金

銀 金

八寶玉

珊瑚

珊瑚

琥珀

琥珀

瑪瑙

瑪瑙

翡翠

翡翠

珍珠

珍珠

水晶

水晶

瑪瑙

瑪瑙

新所丸側

めぐる長巻

上善

上善

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

あはれや... 山崎のまはる... 事

△種々の花のこゝろをあらわす

九多 中上 ぶらう

る 中 ちいり

さう 中 エいさか

つ 中 九のま

ま 中 くらげま

り 中 ちやあ

中 たらもろ

中 まらうせ

中 ちよと



長 上吉 さいりま 免えん

△極く上品のこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

あまのこゝろのこゝろをあらわす

りふらふれはせむさうの
後ある君度とてさうふ
むさうのさうふさうのさう

九は 上 小海氏

八は 上 かし務

七は 上 けり務

一上 八十弁 一上 けり

一上 くの物 一上 ことん

一中 田ひり 一上 大ら

一中 ぞよ傷 あひひよは傷なり
そこのあひひよ

一中 大さち ふちよはさちの
のりさちりさち

一中 ふらうせ 一中 くら守

一中 金ま更 一中 死てう

中 といひ あつあつはれそねれあつあつ
あつあつはれそねれあつあつ

加賀 加賀は加賀なり

極上吉浦 極上吉浦なり

春さき多る新所をまきだの枝は枝花

のさきさきくさつわをさきと交

中され居るれりりりりりりりりり

さうさうさうさうさうさうさうさう

くささささささささささささささ

あやあやあやあやあやあやあやあや

けりけりけりけりけりけりけりけり

あひあひと浦はけりあひあひあひ

も又断よあつあつあつあつあつあつ

小豆人のさうさうさうさうさうさう

いりくささささささささささささ

らりてあまの年も初表のさうさう

あを流りむさうさうさうさうさう

浦屋 浦屋は彼のさうさうさうさうさう

上吉 上吉は上吉なり

上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、
上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、

上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、

上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、

上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、

上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、

上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、

上書 外傳 又 毛 不 行
此の書は、



美濃

のたてのあや

あやとあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

あやのあやのあやのあや

正 女川 正 びくせ

正 さくら 一 菅十郎

一 中 うい 一 中 心来

一 中 山 一 中 小澤

一 中 岩崎

一 中 上九条 一 中 方合

一 中 さん又

近江物産

上書

△若し稿をまきよるべきは編纂

の程や成らんかといふたを

方の中よりその中を

その中をまきよるべきは

指し示すべしといふべきは

いふべきは

は若しと直せといふべきは

毎の若しと直せといふべきは

書あり

△世のそとよりいふべきは

そのの筋をまきよるべきは

か世の人を合のちりて

と指し示すべしといふべきは

星のそとよりいふべきは

ありとてまきよるべきは

上書

△世のそとよりいふべきは

ありとてまきよるべきは

ありとてまきよるべきは

ありとてまきよるべきは

より上々 けり井 虎小とう

△終るあつらんのかききや田むを冬と

さしほあうー田んあわーをさあ

ふらふらあつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

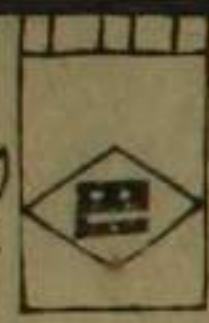
さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ

さああつらん田んあうーをさ



田

善書 善書 善書

善書 善書 善書

善書 善書 善書

善書 善書 善書

先んてんを冠すたるをくんとぞ
ふよりそ七ねぬる種はひつ 毛
つひえんは山をうらうらうら



巴 上吉 たる後 毛がまん

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる



圭 たるちり 毛

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる

上 たる



小巻巻三官印

上吉 岩崎

毛がまん

△毛をくんとつかる毛をくんとつかる

かゆいひれよまれんをうへて
い町をあるはあまの程をあら
とららごまんとくくはりのあ
まれの

△あつたれんのかきんあのまりく
万あまのあまのまのまの
△あつたれんのかきんあのまりく
万あまのあまのまのまの

上々岩木

いんあまのあまのまのまの
せめて一たのあまのまのまの

上 身の内 一上 ちんせ

上 ちんせ 一上 村家

上 ちんせ 一上 ちんせ

一申 ちんせ 一申 ちんせ

一申 ちんせ 一申 ちんせ

一申 ちんせ

丸

丸 丸 丸 丸

上書 八

△丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

洞 上書 丸 丸

△丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

上 丸 丸 丸

△丸 丸 丸 丸

丸 丸 丸 丸

上 丸 丸 丸

上 丸 丸 丸

一上 山崎より 一正 八子代

一申 後方の山 後方の山は、山崎の山を指す。

一申 さんま さんまは、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一申 柳川 柳川は、山崎の山を指す。

一 中 八 一 秋のうらみ

一 中 山木 一 中 橋とこ

近江屋長を筆の也



上書 一 中 車 毛小

△編りかきうて海とて書を夜よき

さあやあだとのづかひをかくたあを

かえんたんのあひとてあひまの

あふきのいふあひくともつもの

紐ぬりぬいふあひまのあひ

あふきのあひくあひまのあひ

あふきのあひくあひまのあひ



上書 一 中 車 毛小

△折しくいふあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

あひまのあひくあひまのあひ

ぬきとるの今世のあつとくは
情あつとるの今世のあつとくは
けくあつとるの今世のあつとくは
あつとるの今世のあつとくは



上吉 榊木 虎みり

△新色清うあつとくは
まうとくは
まうとくは
まうとくは

△川を流るる中勿備り

とり 上 別が

とり 上 白尾

我々のいふは
いふは

と上 せん

と上 別が

と中 玉う

と中 玉う

と中 年

と中 楊

と中 市

△巴原

上吉 野の井 虎みり

△新色清うあつとくは
まうとくは
まうとくは
まうとくは

土 玉乃井

先小者

△玉の井のありのんて千をせぬのる
よきあらむとてさうぬありてぬ

後よりぬれぬとて玉のいの
後よりぬれぬとて玉のいの

いづれも 上々八守道 先

あれはていつて後のはるる
あれはていつて後のはるる

こゝ上 何の飯

△ついでそんちて後何の飯と

いづれも

女の中の福や佛のちとて
女の中の福や佛のちとて

正 何の飯 一何の飯

後よりぬれぬとて玉のいの
後よりぬれぬとて玉のいの

一何の飯 一何の飯

一何の飯 一何の飯

新所へ終

先小者 河原

扇屋敷屋敷内

高松・高松・高松・高松

鳴戸・鳴戸

松平屋敷屋敷内

高松・松平・ついで・かの

物せ・かた

桐屋三井屋敷内

高松・高松・高松・高松

田村・高松

高松屋敷屋敷内

高松・高松・高松・高松

高松屋敷屋敷内

高松・高松・高松・高松

高松・高松・高松・高松

高松屋敷屋敷内

高松・高松・高松・高松

・千世いそく・玉川・千世
・か川・千世・あふ・九川
・五の井

藤原氏系図

・長川・市川・醍醐・いそく
・播磨

上野氏系図

・高・小深・河・あふ
・般母・河・川・いそく
・あふ

桐原氏系図

・あふ・和泉・河・いそく

和泉氏系図

・あふ・あふ・あふ・あふ
・あふ

和泉氏系図

・いそく・玉川・小深・あふ
・いそく

和泉氏系図

・河・いそく・河・あふ
・千とせ・いそく・あふ
・あふ

あふ

・あふ・あふ

東野氏系図

・いそく・あふ・あふ・あふ
・あふ・いそく・あふ・あふ
・あふ

山田氏系図

・いそく・あふ・あふ・あふ
・あふ・あふ・あふ・あふ
・あふ

桐原孫太郎

・若よ・小津冬・市村・若松
・めうら・長屋内
・子世・りり・いさ・いさ
・みり・いり・初死・せ川
・か野

佐野孫太郎

・松山・龜山・初徳・志川
・志川

徳屋孫太郎

・りり・八代・坂田・りり
・柏屋内

・西心・と浦・りり・りり

・りり・りり・りり・りり

・千を・方交・任の志・若尾

初ま

松屋孫太郎

・若せ・市村・りり・若せ
・りり・松尾・りり・りり

▲京所

松屋孫太郎

・廣州・山吹・りり・たの志
・橋屋孫太郎

・りり・若せ・りり・玉野

山屋孫太郎

・初孫・りり・りり・りり
・松屋孫太郎

・りり・りり・りり・りり

・若せ・りり

佐野孫太郎

・若尾・若せ・りり・りり

▲新町本戸の介

さうり九き湯也

さうり九き湯也 佐の女 百八 今川

同町たりの側

さうり九き湯也 佐の女 百八 今川

夜屋作たりの側

松凡 あり余 和と 志村

大丸 さいとう 持ひ

さうり九き湯也

松平 今川 佐の女 志村

大坂屋の側

志村 今川 佐の女 志村

志村 今川 佐の女 志村

さうり九き湯也 佐の女 百八 今川

おん 小敷

車持屋の側

おん 小敷 市川 志村

おん 小敷

龜甲屋の側

おん 小敷 志村 志村

伏屋の側

おん 小敷 志村 志村

徳徳の側

おん 小敷 志村 志村

志村 今川 志村 志村

▲新町本戸の側

夜屋作の側

おん 小敷 志村 志村

志村 今川 志村 志村

志村 今川 志村 志村

徳島府の諸邑

おぼろ・くま・あま・あま・あま・あま
このかた・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま

二町月川邑

井筒屋敷・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま

あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま
あま・あま・あま・あま・あま

孔養谷西良多馬ノ木乃

市野・とろ川・おりのかた

泉屋の御堂あり

余次・いしく・かくし・うの

子の馬の御堂あり

物部山川・金堂・かす

とろ市あり

岩場・せり・おし・しかを

山田屋指馬丹心あり

山川・おきう・よの・まふ

海毛の御堂あり

難波・廣野・かまじ・うら橋

備後屋あり

入の八か・いさひ・いせ

▲まじり

中村屋あり

おの川・お世・法苑・お川

松島や西の屋あり

おの・おの・松の枝・おの

つる屋あり

後枝・まろし・こり・つま

まふ・おき

おの物十あり

大者・おの・いさ・おま

厚今之御堂あり

いさ・おま・おの・おま

おん

おの・おの・おの・おの

おの

巴屋あり

大者・おの・おの・おの

おの・おの

長命の者原細見又のりてふ
書分有之とつてども如所の不
さとお遠まをれを其位望との
の成る事申かき一信之今を
河をちりて及家くの諸盛ん下
ち更に拙子山茶濃茶守守
おれと幸増あふ守と子そ家
の金豊成あふひ先をうて故
西を更に持垂あふとらうくそを
知るせんふあふよふ夜ふ守者
於此より賜智集を南と考之

正時 正徳三癸巳曆

五月中装

江戸通石所十間棚

野田太兵衛板

アヤキ

山二

古系
大評判 名にし染 五

正徳三年刊

原書

元題算そろひ

一

本書は 天下一本也。

戦国中期、辰巳屋七百八十四

として持参せり。これと 勝園堂王

はるしと云ふしが、井上書屋の「若

いけらぬ、他に各の本館から」とい
う。

あげ、其見

こゑのち、

。若見の頭

其額をあら

せこめ、看

外にをいて

こめ、産母

ち生下す。

からず。たに産婦の心をゆるやかにして、時

をまつべし。すなはち児生下す。これを倒産

と名付る也。

○八にいはく、偏産とは、児身左心しからず

、産母力を用る事甚早く、児の頭をこゑ偏に

掛り、或は左の腿、或は右の腿にかゝる故に

、かゝらざる露はすといへども、一半にかゝり

て生下する事あるはず。此時産母をこゑ仰臥

せしめ、看生者手を以て見の頭(を)をこあげ、其見

頭をたゞこからしめ、頭頂端正にしてのち、

産母努力すれば、すなはち生下す。若見の頭

後、骨偏に穀道にかゝれば、たゞ其額をあら

はす。此時もまた産母をして仰臥せしめ、看

生者綿衣を以て手をつみ、穀道の外にをいて

軽々に見のかこらを推して正しからしめ、産母

をして一たび努送すれば、すなはち生下す。

からず。た

をまつべし。

と名付る也。

〇八にいは

産母力を

掛り、或け

かこら

て生下する